

令和4年度 評議員会 議事録

日 時 令和4年5月14日(土) 15:00～
場 所 北海きたえーる研修室
評議員出席者 小川政憲(議長)、二本柳康人、宇野 要、阿部 豊、
大西能正(リモート)、難波 繁(リモート)
理事出席者 生島典明、紺屋正雄、黒田謙二、渋谷研一、印藤智一、
丸山道博、田中昌幸、齊藤幸治、石崎 賢、川崎尚子、
笹森恭之、奥山 諭、藤原 正、家近昭彦(リモート)
坂本雅春(議事録)
監事出席者 須田正毅

<議事進行：小川評議員会議長>

1. 開 会 (齊藤総務委員長)

評議員9名中6名の出席があり定足数に達している旨報告あり。

2. 会長挨拶 (生島会長)

お忙しい中お集まりいただき感謝申し上げます。

依然として、新型コロナの感染者数が高い値で推移しており予断を許さない状況が続いている。

昨年も多くの大会が中止となる一年とたったが、そのような中、天皇杯・皇后杯北海道ブロックラウンドや高校選手権大会が、主管協会の協力のもと感染防止対策を講じながら開催できた。

男子V2リーグでは、ヴォレアス北海道が今季リーグを制し、V1昇格をかけて臨んだチャレンジマッチで一步及ばず残念な結果となったが、来季こそはV1昇格を成し遂げ、サフィールヴァ北海道・デンソーエアリービーズ・アルテミス北海道とともに、道内バレーボールを盛り上げてくれるものと期待している。

本日の評議員会では、令和3年度事業報告や決算認定等について審議いただくので、よろしく願います。

3. 議事録署名人選出 (小川議長)

議事録署名人に、小川議長のほか、二本柳評議員、宇野評議員の2名を指名。

4. 協議事項

(1) 令和3年度 事業報告及び決算書類等の承認について

以下の①～③について説明され承認された。

①事業報告関係について、各委員長から説明された。

総務委員会の説明前に、齊藤総務委員長より評議員会議案の議事次第中の4. 協議事項、(1)の「④強化委員会」の7ページを10ページに、「⑤指導普及委員会」の10ページを7ページとする資料修正が説明された。

・総務委員会 (齊藤総務委員長)

各種会議の開催報告をはじめ、健全な財政運営等について説明された。

・競技委員会 (石崎競技委員長)

競技委員長会議や高校新人大会、全国社会人9人制大会等の多くの大会が中止となった。

今後は、高校選手権大会において、物販等の実施を検討することなどが説明された。

・審判委員会（川崎審判委員長）

各種会議の開催や延期されていたA級資格審査会が本年8月に実施予定であることが報告された。

Vリーグ開催に向けた審判員講習会・研修会を実施したほか、ビーチ連盟との連携により審判員の育成に努めることなどが説明された。

・強化委員会（奥山強化委員長）

各種会議の開催のほか、中学生JOC北海道選抜に係る強化では、コロナによる中止も危ぶまれたが、競技方法の簡素化等の工夫により、選手・スタッフも苦慮しながら大会に臨んだ結果、男子は予選敗退となったものの、女子がベスト8進出の好成績となったことが報告された。

高校強化では、長身者合宿を12月に延期し、この中から男子3名・女子2名がジュニアオールスター大会に選抜されたが、2月大会が中止となったことなどが説明された。

・指導普及委員会（笹森指導普及委員長）

各種会議をリモート開催したほか、オール北海道強化育成合宿はJOC最終選考で12名に入らなかった選手を高校に繋げるために実施し、中学生2次キャンプも3年ぶりに実施したが、その他の事業はコロナで中止となったことが報告された。

小学生大会は、道新カップ予選・スポーツ少年団大会は実施したが、全道大会は、各地区各カテゴリー優勝4チームで開催したことなどが説明された。

（質疑）

小学生の区分に「男女混合」が加わり、小学生バレーが大きく発展した。

一方で、全国では勝つことを重視したチーム編成を行っている事例があると聞いているが、指導普及から見た「男女混合」のあり方について、どのような感想を持っているか。

（笹森指導普及委員長）

小連担当理事が欠席のため、私感ではあるが、当初、男女混合は、男子の裾野を広げることで設けられたはずだが、全体的なバレー人口の減少により、男女ともにチーム編成して、全国を目指すこととなり、その結果、チーム強化・勝利重視のチーム編成が行われるようになったかと思われる。

北海道においては、そのような実態はないと認識しており、全国的にも男女混合のあり方を検討する動きもあると聞いている。

②一般会計・特別会計決算報告関係について、齊藤総務委員長より説明された。

令和3年度は、前年度決算に伴う繰越額の確定や北見開催の高校新人大大会助成対応に係る補正予算を編成した。

一般会計決算の収入では、新型コロナウイルスによる高校新人大大会の中止により、参加料が減少したことなどにより、収入合計が15,904,276円となった一方、支出では新型コロナウイルスによる事業中止に伴い、事務費が減となり、支出合計が13,876,825円となり、収支差引2,027,451円を令和4年度に繰越す。

特別会計決算のうち「財政調整基金」では、国体少年男女ユニフォーム代を支出した結果、次年度繰越額は10,906,813円、「特別事業等基金」では、北見開催の高校新人大大会助成金として一般会計に繰出したほか、協会創立90周年記念事業経費を繰出した結果、次年度繰越額は、13,574,668円、「強化・育成基金」では、審判育成事業とビーチ連盟活動支援事業に繰出した結果、次年度繰越額は5,364,106円となった。

チャレンジファンドは、寄付先変更に伴い全額を繰出し、次年度繰越額を0円としたうえで、口座解約と規程廃止を行った。

③監査報告について、須田監事より報告がなされた。

各委員会会計、一般会計及び特別会計のいずれも正確かつ適正に処理されていることを認めるとの報告がなされたほか、将来的な協会法人化を見据え、会計処理システムの導入と税理士対応について検討

するよう意見が付された。

(2) 北海道バレーボール協会規約の一部改正(案)について(齊藤総務委員長)

事務負担の軽減と効率化を図るため理事会承認を得たうえで運用している議事録の押印廃止について、規約上の改正を行うもので、規約第23条・37条・44条の各第2項中、「記名押印」を「署名」に改め、施行期日を令和4年5月14日とする改正案が提案され承認された。

5. 報告事項

(1) 令和4年度事業計画及び予算について

以下の①～③について、令和4年3月12日開催の「第4回理事会」資料にて報告された。

①協会運営の基本方針について

印藤理事長より、6つの重点目標に基づく基本方針が報告された。

②事業計画関係について、各委員長から報告された。

・総務委員会(齊藤総務委員長)

各種会議の開催計画や財政面の課題から、令和4年度において、財政面の課題から、基金管理の取扱いを検討する。

・競技委員会(石崎競技委員長)

各種会議日程等のほか、今年度は、大会マニュアル化、高校新人大会輪番制、高校選手権大会の物販に取り組む。

・審判委員会(川崎審判委員長)

各種会議日程のほか、審判員の発掘・育成では、7月8日～10日開催の大学選手権でユースセミナー計画しているほか、レフェリーキャンプ等を実施する。

・強化委員会(奥山強化委員長)

各種会議日程のほか、中学生はJOCを通じて、高校生は国体を通じてトップ選手の育成を図るほか、成年の強化事業についても報告された。

・指導普及委員会(笹森指導普及委員長)

各種会議日程のほか、小・中学生競技大会を計画しているが、基金活用事業として予算化した「北海道中学生強化交歓会」は新型コロナの影響で中止が決定したほか、指導者養成講習会等について報告された。

(質疑)

各種大会の指導者資格要件について、全国に繋がる地区予選や地区大会は、コーチ1となるとハードルが高い、大会参加しやすくなるよう、道公認コーチで可とすることで良いか。

(笹森指導普及委員長)

指導普及委員会の見解となるが、全国大会に繋がる地区予選会であっても、開催する地区で作成した大会要項に基づき、道公認コーチで可とすることが明記されていれば問題はないと考える。

資格取得を進める背景には、暴力・暴言を無くし、グッドコーチを養成することにあり、指導普及委員会としては、できるだけ資格取得に努めて欲しいと考えている。

③予算関係について(齊藤総務委員長)

一般会計予算は、資料の当初予算欄に記載のとおり確定したが、令和3年度決算に伴う繰越額の確定や高校新人大会参加料を増額する補正予算が、本日開催の第1回理事会で承認された。

収入は、繰越額が2,027,451円となり、高校新人大会参加料15,000円を20,000円に増額することで当初予算より1,700,000円増の18,900,000円を見込み、支出では、高校新人大会増額分を全額大会参加料として事業費として見込むほか、未だ予断を許さない新型コロナ対策に迅速に対応するため、予

備費に1,355,000円を措置し、18,900,000円とすることが報告された。

6. その他

7. 閉会

議事録署名人 議長 小川 政憲

議事録署名人 二本柳 康仁

議事録署名人 宇野 要